

果樹生産園地用 クビアカツヤカミキリ 防除対策マニュアル (第1版)



滋賀県農政水産部
令和7年(2025 年)7月

1 クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii*について

クビアカツヤカミキリは中国、ロシア、ベトナムなどを原産地とする外来種であり、2012年に国内で発生が確認されました。発生地域が全国的に拡大しており、滋賀県では、2025年7月、ウメ園で成虫を確認しました。幼虫は、ウメ、モモ、スモモ等の樹木内部を食害し、激しい場合は樹木が枯死します。被害拡大防止に向け、早期発見・早期防除を確実に行うことが重要です。

2 クビアカツヤカミキリ(成虫)の特徴

○体全体は黒く光沢があり、前胸背板(頭部の下部)が赤い。

○体長(頭部から腹部末端までの長さ)は、約2.5 cm～4 cmですが、**個体差が大きい**です。

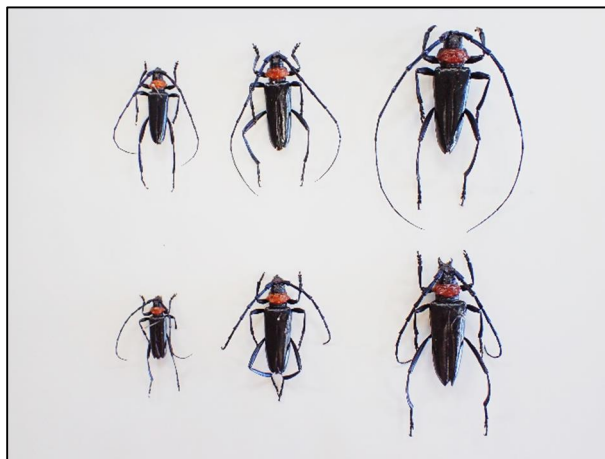
○掴まされると強い臭いがある液体を排出します。

○車両や鉄道等に付着して長距離移動することがあります。

※本虫は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」による特定外来生物に指定されており、許可なく「生きたまま持ち運ぶこと」「飼育すること」「他の場所に放すこと」等が禁止されています。発見した場合はその場で駆除してください。



クビアカツヤカミキリの成虫(左:オス、右:メス)



クビアカツヤカミキリの個体差(上:オス、下:メス)

3 生態

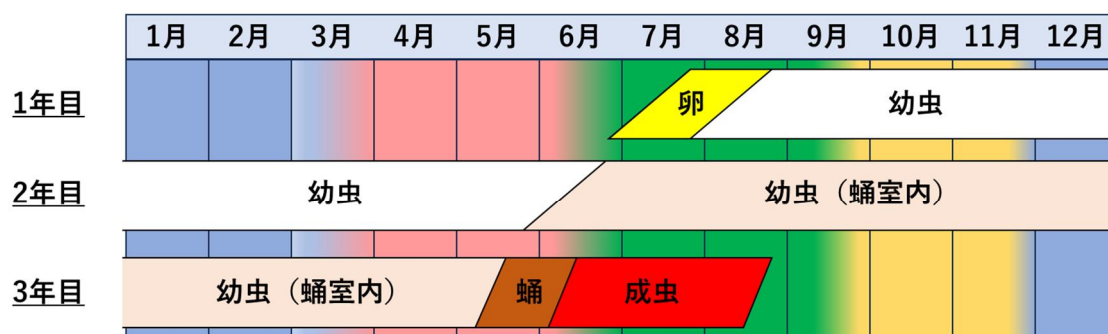
○成虫の発生時期は6月～8月頃で、**昼間に活動**します。また、成虫の寿命は2週間～1か月程度です。

○成虫は羽化後**すぐに交尾**し、樹皮の亀裂やめくれのある樹皮の隙間に、平均300個(最大1,000個ほど)と**非常に多く産卵**します。

○幼虫は**サクラ、ウメ、モモ(ハナモモ)、スモモ(プラム)、プルーン、オウトウ(サクランボ)、アンズ**などの主に**バラ科樹木**を加害します。

○幼虫は孵化後、樹皮下に潜りこみ、基本的に**2年かけて樹木内で成長**します。

○幼虫が春～秋にかけて木の内部を摂食することで**樹木を衰弱、枯死**させます。この時、ひも状につながったフラス(糞と木くずの混ざったもの)を樹木の株元に大量に排出します。また、フラスの排出は5月～9月に盛んに見られます。



提供：森林総合研究所「クビアカツヤカミキリの防除法」マニュアル(図1)一部改変

クビアカツヤカミキリの生活環

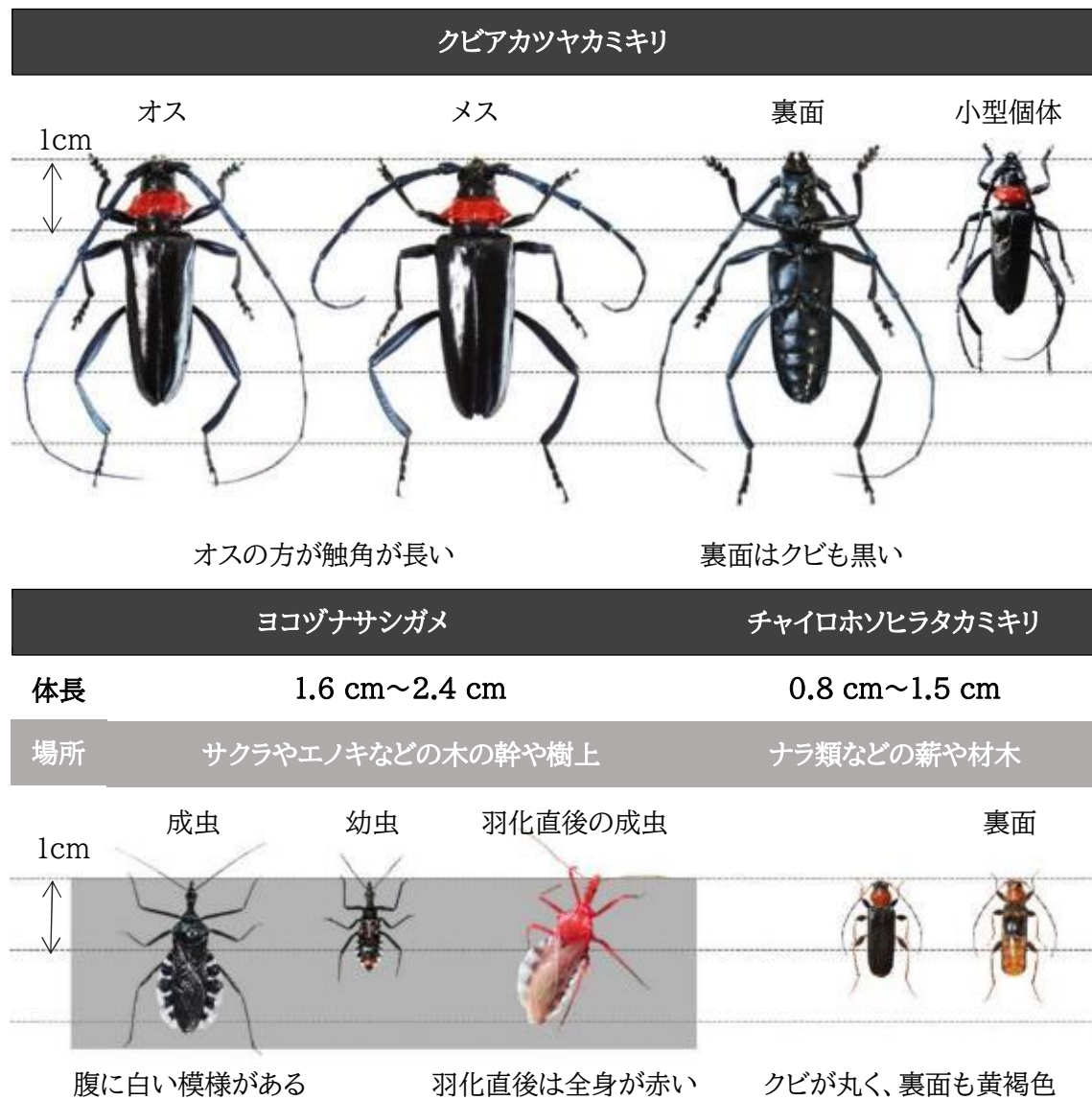
4 発生の確認方法

(1) 成虫

本虫は昼行性で、6月～8月頃に成虫が発生します。このため、昼間に樹幹部を観察することが効果的です。

成虫は飛翔するため、発生調査を行う場合は捕虫網(虫取り網)を持参してください。

クビアカツヤカミキリと似た昆虫との見分け方



提供:群馬県

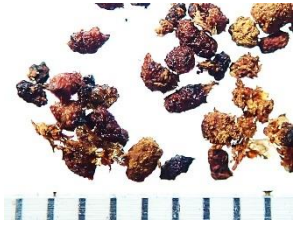
(2) 幼虫

幼虫は樹木の内部にいるため、幼虫が排出するフラスを発見することで発生を確認することができます。

フラスはクビアカツヤカミキリ以外昆虫からも排出されますが、本種のフラスは虫糞と木くずが連なった形をしており、大量に排出されることが特徴です。

フラスの排出が盛んな5月～9月に株元を確認することが効果的です。

似ているフラスとの比較

	クビアカツヤカミキリ	その他のカミキリムシ	コスカシバ
形状			
	かりんとう状・バラバラ	ペレット状・バラバラなど	バラバラ・塊状
主な構成物 (3倍拡大)			
	薄く短い木くず	繊維状の木くず	粒状のフン

提供：群馬県

5 防除対策

(1) 刺殺・捕殺

【幼虫の刺殺】

フラスを排出口からかき出し、長い針金などを差し込んで刺殺します。

【成虫の捕殺】

成虫は飛翔するため、捕獲する際は捕虫網(虫取り網)などを用います。

(2) ネット巻き

○樹内から発生する成虫の拡散を防ぎます。

成虫が発生する6月までに、目合い4mm以下の強度のある防風ネットなどを地際から高さ2m程度までの樹幹に巻き付けます。ネットは、樹幹に密着せず余裕を持たせて巻き、上下は針金やペグで固定します。

○ネット巻きの方法

- ① 約2mの高さで、主枝にガンタッカー等で固定し、ネットの上端をひもやテープでしっかりと縛ります。

- ② ネットの噛み切りや、産卵を防止するために、ネットと樹幹が密着しないよう、やや隙間を持たせて巻きます。



- ③ 雑草を抑制するために、防草シートを敷き、ペグ等で防草シートとネット地面にしっかり固定します。

提供：京都府

※ネット内での産卵を防ぐために、ネットを巻いた後も定期的(2～3日間隔)に見回り、成虫を見つけた場合は捕殺します。



ネットごしに産卵を試みるクビアカツヤカミキリ

(3) 薬剤防除

【樹上の成虫】

成虫の拡散・新たな産卵防止のために、成虫の発生時期である 6 月～8 月頃に殺虫剤を樹幹部に散布します。

【樹内の幼虫】

幼虫に対しては、フラスを排出口からかき出し、食入孔にスプレー剤を注入します。

※農薬の使用にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準(使用時期・使用回数等)を遵守します。

(4) 被害木の伐採・処分

○被害木の伐採は、確実に幼虫を駆除できるため、被害拡散防止として最も有効な対策です。

○伐採は、成虫の発生の恐れがない9月～翌年4月に実施します。

伐採した被害木は、枯れても成虫が脱出するため放置せず、散逸防止措置(ネットをかける等)をしてください。

○処分の方法は、破碎・粉碎する場合は現地でチップパー等により粉碎します(10mm 以下)。焼却する場合は、市町の焼却炉に搬入することとし、詳細については、市町の環境部局にお問い合わせください。現地での野焼きは原則禁止です(廃棄物の処理と清掃に関する法律より)。

○幼虫は、根部にも食入することがあるため、伐採後は切り株も掘り上げ(抜根)し、処分してください。抜根が難しい場合は、根を防草シート等で覆ってください。(事前に切り株に覆土するとより効果があります。)

6 発見時の対応

クビアカツヤカミキリの成虫やフラス(疑いを含む)を、農地や生産園地で発見したら、「発見日時・発見場所・写真(撮れれば)・樹木の種類」の情報と併せて以下の連絡先までご連絡をお願いします。

死がいを発見した場合も通報してください。

(連絡先)

○滋賀県 農政水産部 みらいの農業振興課

TEL:077-528-3842

E-mail:kankyojugai@pref.shiga.lg.jp

○最寄りの農産普及課へ

大津・南部農産普及課 077-567-5412

甲賀農産普及課 0748-63-6127

東近江農産普及課 0748-22-7727

湖東農産普及課 0749-27-2228

湖北農産普及課 0749-65-6630

高島農産普及課 0740-22-6025

クビアカツヤカミキリの生態や防除方法について、より詳しい情報は下記をご参照ください。

・国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所発行「クビアカツヤカミキリの防除法」



<https://www.ffpri.go.jp/pubs/chukiseika/documents/5th-chuukiseika12.pdf>

果樹生産園地用

クビアカツヤカミキリ防除対策マニュアル

初 版 令和 7 年（2025 年） 7 月発行

滋賀県病虫害防除所

TEL : 0748 - 46 - 4926 Email : gc70@pref.shiga.lg.jp

滋賀県農政水産部みらいの農業振興課

TEL : 077 - 528 - 3842 Email : kankyojugai@pref.shiga.lg.jp

表紙写真：本県ウメ園で確認されたクビアカツヤカミキリ

p2中段写真：クビアカツヤカミキリの雌雄

○本マニュアルは、群馬県「クビアカツヤカミキリの見分け方」、京都府「クビアカツヤカミキリ防除対策マニュアル」を参考に作成しました。ご協力に感謝申し上げます。